

[タイム] 760mピーク(9:45)→ヲの沢右俣源頭(9:50)→林道(10:20)

鬼ヶ煩沢支流ワの沢

1989年5月27日

L

天気晴。鬼ヶ煩沢本流の砂防ダムの手前に、左岸から感じの良い沢が入っている。さっそく林道から本流に下降して遡行にかかる。

出だしは2m、1mと2つの滝が連続する。この沢は当りかなと思ったのはつかの間で、すぐ右岸が伐採地となって、枯枝が沢を埋めている。その先はだいぶ昔の造林地で、左右とも杉林となっている。ヤブがひどいのと、手入れがされていないのとで、杉の倒木が多く、それが沢を覆っていて歩けるものではない。悪戦苦闘の末、何とか源頭にたどり着く。あとは急な斜面を10分程やぶごぎをして、11時30分、標高約750mのピークに到達する。

(記)

[タイム] 出合(10:35)→源頭(11:20)→750mピーク(11:30)

鬼ヶ煩沢支流カの沢

1989年5月27日

L

天気晴。つくばの西さんと合流して八溝山系の沢に入ってみようということで、今回は近津川支流の鬼ヶ煩沢流域に足をのばしてみた。

山本不動尊の手前で右折し、鬼ヶ煩沢にそってのびる林道を一番奥まで入る。林道は2万5千分の一の地図に示されている所より更に奥までのび、砂防ダムの所で終点となっている。

身支度を整えて沢に入るが、すでに上流部まで来ているので、水量もさほどでない。砂防ダムを乗り越えると、杉の枯枝が沢を覆い、水量も極端に減ってしまう。すぐに二俣となる。本流は左の沢だが、まずは右のカの沢(仮称)へと入る。

カノ沢(仮称)の右岸は伐採地となり、沢は明るい。しかし、枯枝がつまっていた歩きづらい。右岸の樹林帯から入る小沢の方が枯枝もなく、よっぽど沢らしい。出合から7分出二俣となる。2:1で左俣の方が水量が多い。左俣に入ると、5分程で水は涸れ、沢は終りとなる。出合から15分の遡行であった。同じ沢を引き返す。

(記)

[タイム] 砂防ダム(8:15)→カの沢出合(8:20)→沢終了(8:35)

鬼ヶ煩沢源流 1989年5月27日
L1 一郎

天気晴。砂防ダム上部の二俣を左に入って、鬼ヶ煩沢源流をめざす。さして変化もないまま、遡行を始めて10分程で水は濁れてしまう。カレ沢を遡んでゆくと、やがて二俣に分かれるので、左に入り、ヤブをこいで稜線に出る。稜線には踏跡があった。出合から稜線の標高約760mのピークまで約40分である。

(記・イ)

[タイム] 出合(8:55)→源頭部二俣(9:10)→稜線(9:25)→760mピーク(9:35)

檜沢とその支流イの沢、ロの沢、ハノ沢

1989年5月27日

L1

檜沢橋そばの広場に車をデポ。7:55遡行開始。5分程で最初の支流(イの沢)にであう。まずはここから偵察にかかる。小滝の続く沢である。黒い岩肩がつまったなかに、1~3mの滝がいくつもかかっている。別に難しい滝はない。15分程遡ると二俣。右俣は4mの滝がかかる。本流は左俣である。こちらは小滝が階段状となっている。スタンス豊富で、楽に越して行く。このあとも小滝が続くが、次第にまばらとなり、水も少なくなる。出合から50分遡った所で源頭となり、遡行終了。樹林帯の中を登って尾根に出る。

尾根上で小休止したのち、ロの沢(仮称)の下降に移る。沢までは急な斜面の下りであった。遡ってきた沢とは尾根1本隔てただけだが、この沢は平凡である。小滝も少ない。檜沢本流間近でちょっとしたゴルジュが出現したが、ただそれだけであった。

再び檜沢本流の遡行を続ける。明るい河原が続く。水流も多い。「八溝山城の沢の本流筋に滝はないよ」などと話していたら、突然沢筋が暗くなり、ゴルジュ状となって滝が出てきた。4mの滝。ホールド豊富で、楽に直登。今までの明るい沢筋からはとても想像できない、突然の変化であった。しかし、これはと思っ

鬼ヶ畑沢支流ルの沢

1989年5月27日

L 郎

天気晴。11時50分下降開始。5分程で沢に水が出てくる。この沢の両岸にはだ
いぶ前にスギやヒノキが植林されていて、うっそうとしており、沢にはヤブがか
ぶさっている。

5分程下った所で昼食をとり、下降を再開すると2m程の小滝が出てくる。こ
の後左岸には比較的幅の広い造林のための作業路が出てくる。至る所寸断されて

